

「地質情報展 2015 ながの」 開催報告

川辺禎久¹⁾・齋藤 眞¹⁾・吉田清香²⁾・川畑 晶³⁾・清水 恵³⁾

1. はじめに

19回目の地質情報展となる「地質情報展 2015 ながの」が、長野市生涯学習センターで2015年9月11日から13日までの3日間開催されました。

今回の地質情報展は、1998年に松本市で開催されて以来、2回目の長野県内での地質情報展です(川辺ほか, 2015)。会場は長野駅から善光寺への参道(中央通り)途中、問御所町にある複合施設 TOiGO(トイゴ) WEST 内の長野市生涯学習センター4階で開催しました。本地質情報展は、長野県内のジオパークである南アルプス(中央構造線エリア)ジオパーク協議会と苗場山麓ジオパーク推進協議会に共催となっていたほか、長野県、長野市はじめ多くの機関、団体、メディアに後援していただきました。また長野県内には多くの地質系博物館がありますが、そのうち戸隠地質化石博物館、野尻湖ナウマンゾウ博物館、大鹿村中央構造線博物館、信州新町化石博物館に展示協力をしていただき、ポスター、化石標本などを展示していただきました。また長野県環境保全研究所には長野県が作成している新版長野県地質図を展示していただきました。

2. 企画・運営・広報体制

2015年度から地質調査総合センターのアウトリーチ関連業務の見直しが行われ、地質情報展は、研究戦略部研究企画室国内連携グループが事務局となり、地質情報展企画運営委員会が展示内容を決定、地質情報基盤センターがポスター作成や当日の会場での支援を協力して行う体制になりました。体制移行に伴う準備で、2015年は作業が例年よりずれ込んでしまったため、やや窮屈なスケジュールになってしまいましたが、各担当者(第1表)のご協力で時間通りに準備を進めることができました。

地質情報展の広報活動は、これまでのアンケート結果と2015年の開催スケジュールから、近隣の小学校に集中的

にチラシの配布を行うとともに、長野市内の全小中高校にポスターを配布しました。また会場、ジオパーク並びに展示協力していただいた各博物館、会場の長野市生涯学習センターにもチラシの配布をお願いしました。地質情報展開催前後には後援していただいた信濃毎日新聞はじめ、読売新聞、毎日新聞、地元情報誌に計5件の写真入り記事が掲載されました。ただ開催直前に発生した台風に伴う洪水災害の報道に時間がとられたため、TV報道が2015年はありませんでした。このことが後述する来場者動員にはマイナスだったかもしれません。

第1表 「地質情報展 2015 ながの」 担当者一覧

2015年度地質情報展企画運営委員会

齋藤 眞	委員長	研究戦略部
宮城磯治		活断層・火山研究部門
柳澤教雄		地質資源環境研究部門
野田 篤		地質情報研究部門
納谷友規		研究戦略部(当時)
川畑 晶		地質情報基盤センター
利光誠一		地質情報基盤センター
内野隆之		日本地質学会

事務局スタッフ

川辺禎久、海老原才輝、吉田清香、下川浩一、森尻理恵、角井朝昭、中島和敏、芝原暁彦、朝川暢子、清水 恵

パネル等原稿作成・協力

地史・地域地質：長森英明、齋藤 眞、川辺禎久、中野 俊、川畑 晶
 地震・津波：吉岡敏和、勝部亜矢、近藤久雄、澤井祐紀
 長野の火山：川辺禎久、及川輝樹、中野 俊、宮城磯治、石塚吉浩
 地質災害：川辺禎久、宮城磯治
 再生可能エネルギー：内田洋平、吉岡真弓
 地質とふれあう：高橋雅紀、齋藤 眞
 ポスターデザイン・作成：清水 恵、川畑 晶

体験コーナー

化石レプリカ：利光誠一、中島 礼、中澤 努
 マンガンキャッチャー：宮崎純一
 地質砂絵：芝原暁彦、吉田清香、高橋 誠
 石割体験：下川浩一、佐藤大介、松浦浩久、酒井 彰、遠藤俊祐、細井 淳
 岩石破壊実験：佐藤隆司、高橋美紀、高橋 誠
 液状化実験：兼子尚知
 地質模型：高橋雅紀
 地学クイズ：坂野靖行

会場係

受付：谷島清一、清水 恵、菅家亜希子
 会場運営：齋藤 眞、川辺禎久、吉田清香、川畑 晶、中島和敏

1) 産総研 地質調査総合センター研究戦略部
 2) 産総研 第三事業所研究業務推進室(元地質情報基盤センター)
 3) 産総研 地質調査総合センター地質情報基盤センター

キーワード：地質情報展、2015年、成果普及イベント、長野市、日本地質学会、長野市生涯学習センター、地質調査総合センター、アウトリーチ活動

3. 展示内容

今回の出展内容は第2表のとおりです。地質情報展会場の実際の様子は写真1～4に示します。パネル展示は大きく「長野県の地史・地域地質」「地震・津波」「長野の火山」「再生可能エネルギー」「地質とふれあう」の5つに分け、計17枚の展示パネルを作製・展示しました。会場内には長野県を中心とした約5m四方の床張りシームレス地質図と長野県北部の5万分の一地質図幅をつなぎ合わせた床張り地質図が岩石標本とともに置かれました。

体験コーナーでは、「化石レプリカ作り」「石割体験」「岩石破壊実験」「マンガン団塊拾い」「液状化実験」「焼岳見たまま砂絵で地質図」「地学クイズ」を行いました。「岩石破壊実験」は地質情報展としては久しぶりの開催でしたが、多くの方が興味深そうに実験に参加されていました。

地質情報展来場者は残念ながら少なかったのですが、逆に体験コーナーを全制覇、また繰り返し楽しめる来場者もおられました。

前回(2014年)好評だった会場内スタンプラリーを今回も行いました。特に今回は会場の部屋が大きく2つに分かれていたため、「次のスタンプは隣の部屋にあるよ」と誘導することに役立ちました。スタンプをすべて捺した来場者には記念品をお渡ししましたが、スタンプそのものも来場記念品として子どもたちに好評でした。

4. 来場者数とアンケート結果

今回の地質情報展は、3日間の来場者数は353名と残念ながらかなり少なくなってしまいました。3日間のうち初日が平日だったこと、2日目が周辺小学校の多く

第2表 「地質情報展2015 ながの」 出展内容

長野県の地史・地域地質	内容	再生可能エネルギー	内容
長野の地史 長野県の地質 北アルプスの地質	長野県の地質を地質年表上で解説 長野県の地質概説と地質図の紹介 北アルプスの地質を写真や地質図で紹介	地中熱利用システム	地中熱利用システムの紹介
地すべり災害	長野市地附山地すべりの紹介	地質とふれあう	
地震・津波		シームレス地質図	長野県を中心とした床張りシームレス地質図
地震・津波の起こり方 糸魚川-静岡構造線断層帯 2014年長野県北部の地震	地震・津波の発生メカニズムの解説 糸魚川静岡構造線断層帯の紹介 緊急調査成果の解説	ジオラマ模型で地質を学ぼう	ジオラマ模型を使って地質学の紹介
長野の火山		体験コーナー	
長野の活火山 マグマ噴火と水蒸気噴火 2014年御嶽山噴火	長野県周辺の活火山を写真で紹介 噴火の種類と火山灰で見分ける方法の解説 御嶽山緊急調査結果などの解説	化石レプリカ作り 石割体験 焼岳見たまま砂絵で地質図 マンガン団塊拾い 岩石破壊実験 液状化実験 地学クイズ	化石の石膏レプリカ作成 自分で選んだ石を割る体験 焼岳の地質図を砂絵で作成 グラブを使ってマンガン団塊採取体験 岩石片に圧力をかけて破壊し地震発生機構を体験 エキジョッカーを使って液状化の実験 様々な地学に関するクイズに挑戦



写真1 床張りシームレス地質図
長野県を中心としたシームレス地質図では、来場者がご自分の住む場所を探して、熱心に質問されていました。



写真2 化石レプリカ作り
例年多くの参加者がある化石レプリカ作りには、少ない来場者にも関わらず、順番待ちができることも。



写真3 岩石破壊実験
実際に岩石を破壊して、地震発生機構を調べる展示には、大人も子どもも注目していました。



写真4 長野県内の地質系博物館展示
通路には、協力していただいた長野県内の地質系博物館から、パネルや標本の展示をしていただきました。

で授業参観日だったことで1日目も含め小学生来場者が少なかったこと、また長野市生涯学習センターが駅からやや遠く、賑わいから離れており、しかも地質情報展の会場が4階ということもあってやや場所がわかりにくかったのかもしれませんが。そのため、例年には多くいる飛び込みの来場者も少なかったことが、来場者数が伸びなかった要因と考えられます。

来場者アンケートには75名の方に回答していただきました(回答率21.2%)。回答率は前回の2倍以上で、相対的に多くの方々の感想を得ることができました。主なアンケート結果を第1図に示します。

来場者の構成は、学校行事としての小学生の来場者が少なかったため、その保護者の一般の大人も減るという傾向が認められました。その分、来場者に占める地質学会員の割合が高くなっており、一般来場者が少なかったことが見えてきます。

地質情報展の認知手段は、TV報道がなかったことを反映して「新聞・TV」とした回答が前回よりかなり少なくなりました(22%→4%)。一方小学生来場者のほとんどが「学校ポスター・チラシ(15%)」で知ったと回答し、重点的なポスター・チラシ配布方針がそれなりの効果をあげたようです。一般来場者は「公共施設のポスター・チラシ(15%)」、「友人知人から(19%)」との回答が前回以上に多くなりました。地質情報展のような催しに興味を持つ方々は、博物館、公民館などの公共施設から情報を得ることが多く、そこで知った方からさらに口コミで広がっていくことが前回同様読み取れます。その一方で、「産総研地質調査総合センターHP(3%)」との回答は少なく、Web発信の充実や最近多くの方々が使っているSNSの活

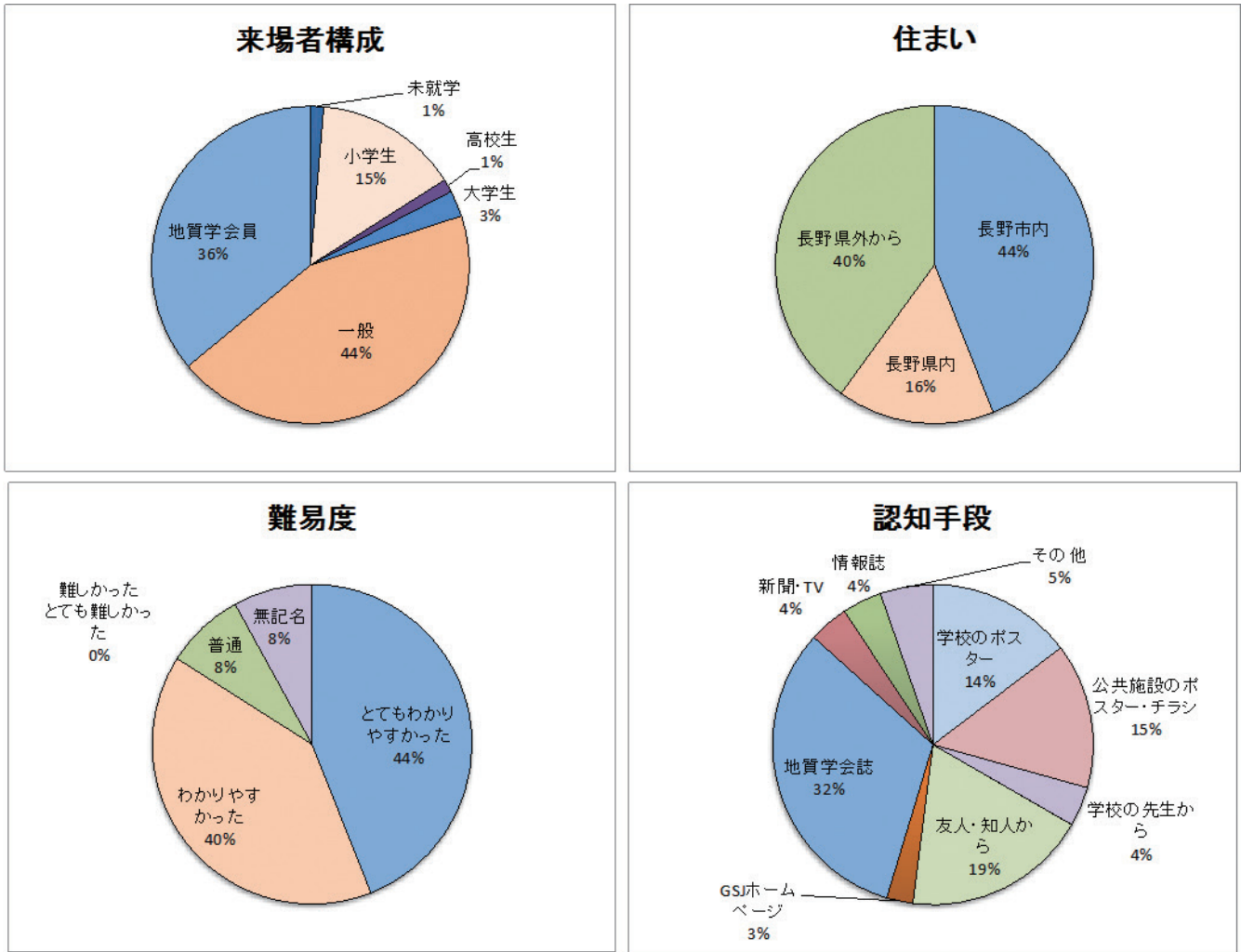
用などの強化策が必要となりそうです。

展示内容の難易度に関しては、前回同様84%の方が「とてもわかりやすかった」「わかりやすかった」と回答されました。特徴的に見られた感想として、「丁寧に説明してくれてうれしい」などの説明に当たった研究者、スタッフに対する賛辞の声が多く寄せられ、とてもありがたい評価をいただきました。普段あまり触れることがない地質に関する疑問点などを研究者が直接説明する地質情報展のスタイルの評価が非常に高いことが読み取れ、来場者は少なかったものの、内容、スタッフ対応とも満足度は高かったようです。

一方、会場が分かりにくい、来場者が少なく寂しいとの意見もありました。今回の地質情報展の問題点はとにかく来場者数が少なかったことにつきます。来場された方には非常に好評であることを支えとして、次回以降は告知宣伝方法を改善し、より多くの方々に来ていただけるよう工夫したいと考えています。

5. おわりに

2016年の地質情報展は東京都世田谷区桜上水の日本大学文理学部で開催予定です。東京では初めての地質情報展ですが、第20回目の記念すべき地質情報展でもあります。東京は都市化が進んだ平野、台地と、山地に広がる付加体の岩石、第四紀火山が連なる伊豆孤の島嶼、古第三紀の海底火山岩からなる小笠原諸島と、南北に長い多様な地質を実は持っている自治体です。「地質情報展2015 ながの」での来場者の声も反映し、反省しながら、より良い地質情報展になるよう努力し、将来を担う子どもたちだけで



第1図 アンケート結果

なく、一般の大人の方々にも、地質と触れあい、楽しみながら足元の地球と自分たちのことを考える、そんな場を作りたいと思います。

謝辞：「地質情報展 2015 ながの」は、平成 27 年度科学研究費助成事業（研究成果公開促進費）「研究成果公開発表（B）」（課題番号 15HP0010、代表者 井龍康文日本地質学会会長）の助成を受けました。科研費の申請・交付にあたっては、日本地質学会事務局の皆様にお世話になりました。ながの観光コンベンションビューロー萩原道夫氏には会場準備などについてお世話になりました。会場アルバイト募集では日本地質学会 2015 年長野大会準備委員会の皆様にお手数をおかけしました。日本地質学会長野大会に参加された産総研研究者の方々にも会場でお手伝いをさせていただきました。以上の方々に、記して感謝申し上げます。

文 献

川辺禎久・吉田清香・渡辺真人・澤井祐紀・川畑 晶・中島和敏・宮崎純一・菅家亜希子・都井美穂・谷島清一（2015）「地質情報展 2014 かごしま」開催報告。GSJ 地質ニュース，4，9-15.

KAWANABE Yoshihisa, SAITO Makoto, YOSHIDA Sayaka, KAWABATA Sho and SHIMIZU Megumi (2016) Report on Geoscience Exhibition in Nagano 2015.

（受付：2016 年 2 月 5 日）